

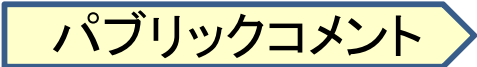

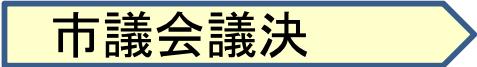




新潟市都市計画マスタープラン策定検討委員会（第2回）
ーその1ー

令和2年11月11日

新潟市 都市計画課

委員会の進め方

委員会	内容
第1回	①新潟市の現状と課題 ②見直しの方向性
第2回	①全体構想(都市・地域づくりの方針)の検討 ②実現に向けた取り組みの検討
第3回	①全体構想(素案)の確認 ②実現に向けた取り組みの確認
第4回	①区別構想(案)の確認  各区による区別構想の検討 
第5回	①運用方策の見直し
第6回	①都市計画マスタープラン[素案] →  パブリックコメント 
第7回	①都市計画マスタープラン[原案] →  市議会議決 

 R2年度内
(予定)

1.第1回委員会のふりかえり

(1) 主な意見

1. 第1回委員会のふりかえり

(1) 主な意見 (1 / 3)

①現状分析について

No.	主な意見	現時点での対応方針
1	○世帯数の増加について、世帯分離などの理由についても知りたい	資料編13pで整理
2	○空き家について、新潟市全域の数値だけだと郊外部の状況が分からない	資料編16pで整理
3	○公共交通については、中心部が対象になっているイメージがある。中心部と郊外に分けて詳細をみるとよいのではないか	資料編20pで整理
4	○公共交通の交通分担率は、他市との比較があった方がよい	資料編21pに追加
5	○津波浸水深の図は、到達時間ごとの図にした方がわかりやすい	資料編27pに追加
6	○公共施設の老朽化など、今後の状況を想定した説明もあるとよい	資料編30pで整理
7	○郊外部の人口分布について、どの程度の人が住んでいるのか、生活を維持できるのかなどについて押さえておくとよい	資料編31pで整理
8	○「新潟市の特徴」は他の順位や具体的な数字がわかるとよい	資料編32～35pで整理

1. 第1回委員会のふりかえり

(1) 主な意見 (2 / 3)

②今後の都市づくりの検討について

No.	主な意見	現時点での対応方針
9	○「移住・定住も含めた農業集落の維持活性化」についてはどのように維持していくのか。住み続けるために、現状や放置するとどのようになるのか等も考えていくとよいのではないか	資料編5～6pで整理
10	○子どもや高齢者がどこに暮らして、どのような移動手段を利用するのかなど、R22の推計人口である72万人が新潟市の中でどのように暮らしていくのかを考える必要がある	今後の施策検討の参考にさせていただきます
11	○空き家対策について、戸建て賃貸のニーズが高い。市営住宅(戸建て版)のような方向で考えていければ埋まっていくのではないか ○市街化区域縁辺部で人口が増加しているという現状を止めるのであれば、住宅が欲しい人の住宅はどうするのか。そこに佐藤委員の意見を盛り込んでいけるとよいのではないか	
12	○今後は保育サービスを整理していかなければならない。子どもが少ない地域での環境をいかに維持していくのかというところが課題になるのではないか	
13	○中心部と郊外部の結びつきを産業でも強調するとよいのではないか	
14	○主要な課題に対して、各項目に何が求められるかを考えていくことも必要ではないか。重要な柱をいくつか立てて考えるとよいのではないか	
15	○新潟市から視点を広げ、全国を意識したものがあってもよいのではないか。「結節点」「拠点」が日本海側の政令市としてのキーワードになるのではないか	
16	○公共交通については、マイカーはよくないと切り捨てるのではなく、郊外などでのマイカーの使い方も考慮した方がよい	
17	○「環境」や「景観」といったキーワードが少ない	

1. 第1回委員会のふりかえり

(1) 主な意見 (3 / 3)

③ キャッチコピーについて

No.	主な意見	現時点での対応方針
18	○政令市でありながら「田園」をキーワードに入れていてインパクトがあるので、「田園」は残してもよいのではないか	今後の施策検討の参考にさせていただきます
19	○具体的な方向性が共有できないとイメージができない	
20	○新潟市はすごく住みやすく、開かれたまちというイメージがあるが、あまり伝わっていない	
21	○「新潟らしいコンパクトなまちづくり」については、前回決定時に腑に落ちているため、新しいものが思いつかない	
22	○その他キーワード 「世界に開かれた(明治の開港5港)」、「食」、「農」、「大きな 空間」、「健康」、「多様性(外の人や文化を受け入れられる地盤があるため)」、「子育て世代が住みやすいコンパクトなまちづくり」、「泣く泣く来て、泣く泣く帰る」、「思いやり」、「共生」、「環境に優しい(自転車には向いている環境)」	